



## 2021年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月10日

上場会社名 アートsparkホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3663 URL http://www.artspark.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野崎 慎也  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 伊藤 賢 (TEL) 03-6820-9590  
 定時株主総会開催予定日 2022年3月30日 配当支払開始予定日 2022年3月31日  
 有価証券報告書提出予定日 2022年3月31日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2021年12月期の連結業績(2021年1月1日~2021年12月31日)

## (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期	6,890	8.1	1,378	78.3	1,419	89.8	1,222	—
2020年12月期	6,373	18.4	773	219.6	747	224.8	△475	—

(注) 包括利益 2021年12月期 1,242百万円( —%) 2020年12月期 △462百万円( —%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2021年12月期	37.49	36.83	23.1	20.3	20.0
2020年12月期	△14.57	—	—	13.1	12.1

(参考) 持分法投資損益 2021年12月期 一百万円 2020年12月期 一百万円

(注) 2021年7月1日付で普通株式1株を4株とする株式分割を行っております。

これに伴い前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年12月期	8,344	6,576	78.5	191.46
2020年12月期	5,638	4,020	71.2	123.01

(参考) 自己資本 2021年12月期 6,552百万円 2020年12月期 4,013百万円

(注) 2021年7月1日付で普通株式1株を4株とする株式分割を行っております。

これに伴い前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産を算定しております。

## (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2021年12月期	1,972	△473	1,283	5,693
2020年12月期	1,820	△778	△46	2,895

## 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2020年12月期	—	0.00	—	10.00	10.00	81	—	1.9
2021年12月期	—	0.00	—	3.00	3.00	102	8.0	1.9
2022年12月期(予想)	—	0.00	—	8.00	8.00		20.4	

2021年7月1日付で普通株式1株を4株とする株式分割を行っております。これに伴い2021年12月期の1株当たり期末配当金及び年間配当金合計につきましては、株式分割後の金額を記載しております。

## 3. 2022年12月期の連結業績予想(2022年1月1日~2022年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,619	3.2	739	△5.5	716	△11.0	323	△62.6	9.37
通期	7,727	12.1	1,942	40.9	1,894	33.4	1,352	10.6	39.23

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 有  
新規 一社（社名） 一、除外 1社（社名） 株式会社エイチアイ

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年12月期	34,456,080株	2020年12月期	32,638,880株
② 期末自己株式数	2021年12月期	235,128株	2020年12月期	14,656株
③ 期中平均株式数	2021年12月期	32,608,266株	2020年12月期	32,606,968株

（注）2021年7月1日付で普通株式1株を4株とする株式分割を行っております。  
これに伴い前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P5「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 中期経営計画の進捗に関する説明 .....	3
(3) 当期の財政状態の概況 .....	3
(4) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	4
(5) 今後の見通し .....	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	4
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 連結貸借対照表 .....	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	7
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	12
(継続企業の前提に関する注記) .....	12
(セグメント情報等) .....	12
(1株当たり情報) .....	15

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当社は、今後の当社グループの中長期的な成長を実現していくため、より機動的な経営体制を構築し事業を推進することを目的に、当社と株式会社セルシスを合併させ、統合会社の商号を事業会社としての認知度が高い株式会社セルシスに変更することを決議しております。

また、当連結会計年度では、期末12月に、日本では「LINEマンガ」韓国では「NAVER WEBTOON」等のサービスをグローバルに提供するWEBTOON Entertainment社と、業務資本提携を締結しました。

当社グループは、デジタルによるコンテンツの創作から利用・活用に至るまでの諸活動をトータルに支援できる環境の提供を経営理念に掲げ、事業を推進しております。

当連結会計年度におきましても、ソフトウェアIPを核とした経営に重点を置き、開発リソースの戦略的配置等、経営効率向上に注力しております。

その結果、当社グループの当連結会計年度の売上高は6,890,802千円（前年同期比8.1%増）、営業利益は1,378,753千円（前年同期比78.3%増）となりました。

また、経常利益につきましては、助成金収入53,278千円、為替差益5,339千円を計上、株式交付費7,856千円を計上したこと等により、1,419,431千円の経常利益（前年同期比89.8%増）となりました。親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、株式会社エイチアイの株式譲渡により関係会社株式売却益205,651千円を計上したこと、法人税等402,956千円を計上したことにより、1,222,560千円の親会社株主に帰属する当期純利益（前年同期は475,407千円の親会社株主に帰属する当期純損失）となりました。

なお、これまで株主の皆様にご理解を深めていただくため、積極的かつ継続的なPR活動を通して事業活動をお伝えしてまいりましたが、これに加え、2021年2月度より、月次事業進捗レポートのリリースを開始しました。月次事業進捗レポートは、当社ホームページのアンケートにお寄せいただいたご意見をもとに、内容を改善しております。

また、より多くの皆様の中長期的に当社株式を所有していただくことを目的として株主優待制度を新設いたしました。

事業別セグメントにつきましては、以下のとおりであります。

#### <クリエイターサポート事業>

子会社のセルシスがイラスト・マンガ・アニメーション制作アプリ「CLIP STUDIO PAINT」の機能向上を目的とした開発投資を行いながら、海外利用ユーザー及びサブスクリプション契約の増加を目的とした、全世界に向けたプロモーション活動を実施しました。

「CLIP STUDIO PAINT」は、2021年12月末現在の累計出荷本数は1,659万本（前年同月比58.5%増）、そのうち70%以上が日本語以外の海外に向けた出荷となっております。また、同月のサブスクリプション契約数は47.8万契約（前年同月比87.5%増）となり、ARR（当社がサブスクリプションから年間ベースで得られると期待できる金額）は1,768,000千円（前年同月比63.1%増）となりました。

セルシスが注力しているサブスクリプションモデルでのライセンス提供は、廉価な価格で利用開始の敷居を下げる反面、一括でまとまった金額のライセンス料を徴収する買い切りモデルに比べ、短期的には収益効果が低くなります。しかしながら、「CLIP STUDIO PAINT」への開発投資を続け、継続して利用頂くことで中長期においては安定した収益が期待できるため、引き続きサブスクリプションモデルでのライセンス提供に注力してまいります。

「CLIP STUDIO PAINT」は、デバイスメーカーと多くのコラボレーションを実施しました。4月には、サムスンのペン付属NotePC「Galaxy Book Pro 360」に、8月には、サムスンのペン付きAndroidタブレット「Galaxy Tab S7 FE」に、10月には、ワコムのWacom Intuos及びWacom Oneに、バンドルされて提供開始されています。バンドルされた「CLIP STUDIO PAINT」は、無料利用期間後にサブスクリプション契約を行うことで継続利用できる形となっており、サブスクリプション契約の増加が期待されます。また、いずれのコラボレーションもグローバルでのバンドルになっており、海外ユーザーの増加も期待できます。

12月には、海外ユーザーの増加も目的に、日本では「LINEマンガ」韓国では「NAVER WEBTOON」等のサービスをグローバルに提供するWEBTOON Entertainment社と資本業務提携を、親会社アートスパークホールディングスを通じて行いました。今後、全世界で大きな支持を急速に得ている縦読みフルカラー形式のマンガである、ウェブトゥーンコンテンツの制作・翻訳・流通の効率化とマーケットの活性化を目指して様々な協業を行ってまいります。

引き続き、海外に向けたプロモーションや、協業パートナーとのコラボレーション等を積極的に行い、活動の軸

を海外売上上の拡大とサブスクリプションモデルの売上拡大に向けた施策に重点を置き活動してまいります。

以上の結果、売上高は5,807,509千円（前年同期比20.8%増）、営業利益は1,777,148千円（前年同期比21.5%増）となりました。

#### <UI/UX事業>

UI/UX事業の主要な顧客である自動車関連分野は、新型コロナウイルス感染症に端を発した、新車開発の遅れによるモデルチェンジサイクルの長期化や、半導体不足等による生産台数の減少等を受け、厳しい事業環境が続きましたが、子会社のカンデラは、2022年後半以降の市場回復・拡大を睨み、研究開発投資と、パートナーとの提携を積極的に行いました。

研究開発投資においては、主力のHMIツールである「CGI Studio」及び「UI Conductor」それぞれの強みを統合し、自動車関連に限らず、液晶デバイスの普及により今後市場拡大が見込まれる、産業・民生機器等の幅広い分野で利用可能になることを目指した、次世代のHMIソリューションの開発に注力いたしました。

継続的な研究開発投資の成果として、7月には、Car HMI Europe が主催する「CarHMI Europe賞2021」の「自動車のHMI + UXにおける機械学習とAIの最も革新的なアプリケーション部門」において、カンデラのHMIツールの機能が、独ダイムラー社などを退けて第1位を受賞しました。

また、将来の市場拡大を見据えて、半導体メーカーやハードウェアメーカーとパートナーシップを結び、HMIツールの利用促進を進めました。6月には、世界的な自動車部品メーカーであるVarroc社と、TFTメータークラスター開発のための戦略的提携を、7月には、エッジコンピューティングのグローバルリーダーである ADLINK Technology社とパートナーシップ契約を、8月には、インドの大手自動車部品及び精密工学製品メーカーのPricol Limited社と戦略的提携を、それぞれ行いました。さらに、世界的な半導体メーカーである ST マイクロエレクトロニクス社より、「CGI Studio」が、2D/3Dのグラフィカル・ユーザー・インターフェースを作成する理想的なツールであると評価され、カンデラがパートナー認定されました。

引き続き、HMIソリューションの積極的な開発及び営業活動を推進してまいります。

以上の結果、売上高は1,070,793千円（前年同期比31.7%減）、営業損失は498,019千円（前年同期は812,242千円の営業損失）となりました。なお、2021年12月期第1四半期累計期間において、連結孫会社であった株式会社エイチアイの全株式を売却したことにより、第2四半期連結会計期間以降につきましては、同社の数値は連結財務諸表に含まれておりません。

## (2) 中期経営計画の進捗に関する説明

2020年11月6日に発表した中期経営計画で見込んでいる、2021年12月期のグループ売上6,980百万円、営業利益1,070百万円の計画に対し、当期実績は、売上6,890百万円（達成率98.7%）、営業利益1,378百万円（達成率128.9%）となりました。

カンデラが主力とする自動車関連分野の厳しい事業環境は改善していないなか、収支のバランスをコントロールしながらの先行開発投資の実施に加え、クリエイターサポート事業の堅調な事業進捗も収益に寄与し、中期経営計画は順調に進捗しております。

## (3) 当期の財政状態の概況

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末と比べて2,706,391千円増加し8,344,670千円となりました。この主な要因は、売掛金が111,539千円、償却により技術資産が102,311千円減少した一方で、現金及び預金が2,801,529千円、ソフトウェアが99,420千円増加したこと等によるものであります。

当連結会計年度末の負債は、前連結会計年度末と比べて150,881千円増加し1,768,484千円となりました。この主な要因は、未払金が55,377千円、未払法人税等が42,465千円減少した一方で前受金が167,817千円、退職給付に係る負債が29,202千円増加したこと等によるものであります。

当連結会計年度末の純資産は、前連結会計年度末に比べて2,555,509千円増加し6,576,186千円となりました。この主な要因は、親会社株主に帰属する当期純利益の計上等により利益剰余金が1,141,000千円、新株の発行により資本金及び資本剰余金がそれぞれ780,570千円増加したこと等によるものであります。なお、自己資本比率は、78.5%となりました。

#### (4) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ2,797,929千円増加し、5,693,279千円となりました。なお、当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、1,972,356千円(前連結会計年度は1,820,864千円の獲得)となりました。これは主として、助成金収入53,278千円や売上債権の増加額205,651千円等の資金の減少要因があったものの、税金等調整前当期純利益1,625,517千円の計上や減価償却費の計上705,925千円等の資金の増加要因があったことによるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、473,506千円(前連結会計年度は778,846千円の使用)となりました。これは主として、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入299,920千円等の資金の増加要因があったものの、ソフトウェア等の無形固定資産の取得による支出665,274千円、有形固定資産の取得による支出100,189千円等があったことによるものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、1,283,902千円(前連結会計年度は46,282千円の使用)となりました。これは主として、配当金の支払額81,560千円や自己株式の取得による支出182,811千円等があったものの、株式の発行による収入1,549,186千円等があったことによるものであります。この結果、現金及び現金同等物の当連結会計年度末残高は、5,693,279千円となりました。

#### (5) 今後の見通し

2022年12月期におきましても、クリエイターサポート事業及びUI/UX事業の両セグメントとも、引き続き自社ソフトウェアIP開発に注力し、販売促進活動を推進してまいります。

クリエイターサポート事業は、グローバル展開を意識しつつCLIP STUDIOへの研究開発投資と、サブスクリプション契約の増加施策を実施し、サービスの継続性と収益性を向上させてまいります。

UI/UX事業は、自動車業界において、依然として厳しい状況が続くものと予想しておりますが、2022年後半からの市場回復にともなうHMIソリューションの需要増を想定し、収支バランスをコントロールしながらの開発投資と、積極的なマーケティング活動を継続してまいります。

以上のことから、2022年12月期の連結売上高につきましては7,727百万円、営業損益では1,942百万円の営業利益と、2021年12月期に対して増収・増益を見込んでおります。経常損益につきましては1,894百万円の経常利益を、当期純利益につきましては1,352百万円を見込んでおります。

また、2022年12月期より、20%の配当性向を基本方針とし、2022年12月期の期末配当金につきましては、1株につき8円(前年比5円増)を予定しております。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。なお、今後につきましては、外国人株主比率の推移及び国内外の諸情勢を考慮し、検討を進めていく方針であります。



3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当連結会計年度 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,923,860	5,725,389
売掛金	474,833	363,293
製品	8,661	9,412
仕掛品	37,577	16,314
原材料及び貯蔵品	13,353	29,106
未収入金	303,844	299,058
その他	107,081	131,057
貸倒引当金	△3,193	△130
流動資産合計	3,866,018	6,573,502
固定資産		
有形固定資産		
建物	136,377	170,309
減価償却累計額	△38,189	△49,924
建物（純額）	98,188	120,385
工具、器具及び備品	349,919	308,640
減価償却累計額	△239,080	△218,891
工具、器具及び備品（純額）	110,839	89,748
有形固定資産合計	209,027	210,133
無形固定資産		
ソフトウェア	807,314	906,734
ソフトウェア仮勘定	—	3,488
顧客関連資産	89,731	62,122
技術資産	332,511	230,200
その他	64,465	76,248
無形固定資産合計	1,294,023	1,278,793
投資その他の資産		
投資有価証券	19,869	28,119
敷金及び保証金	167,188	166,504
繰延税金資産	63,662	76,134
その他	18,489	19,105
貸倒引当金	—	△7,624
投資その他の資産合計	269,210	282,240
固定資産合計	1,772,260	1,771,167
資産合計	5,638,279	8,344,670

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当連結会計年度 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	119,644	120,109
未払金	163,953	108,576
前受金	392,289	560,107
未払費用	165,458	159,769
未払法人税等	260,605	218,140
返品調整引当金	557	1,614
賞与引当金	68,025	64,378
その他	125,061	171,539
流動負債合計	1,295,597	1,404,236
固定負債		
役員退職慰労引当金	126,900	140,980
退職給付に係る負債	192,494	221,697
その他	2,610	1,569
固定負債合計	322,005	364,247
負債合計	1,617,602	1,768,484
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,495,191	2,275,761
資本剰余金	974,318	1,754,888
利益剰余金	1,535,615	2,676,615
自己株式	△3,738	△186,550
株主資本合計	4,001,385	6,520,715
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,206	12,113
為替換算調整勘定	4,713	19,253
その他の包括利益累計額合計	11,920	31,366
新株予約権	7,370	24,103
純資産合計	4,020,676	6,576,186
負債純資産合計	5,638,279	8,344,670



(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
売上高	6,373,808	6,890,802
売上原価	3,241,651	3,263,407
売上総利益	3,132,156	3,627,394
返品調整引当金戻入額	1,535	557
返品調整引当金繰入額	557	1,614
差引売上総利益	3,133,134	3,626,337
販売費及び一般管理費	2,359,860	2,247,583
営業利益	773,273	1,378,753
営業外収益		
受取利息	361	684
受取配当金	122	127
為替差益	—	5,339
助成金収入	—	53,278
その他	7	5
営業外収益合計	491	59,436
営業外費用		
為替差損	22,139	—
株式交付費	—	7,856
貸倒引当金繰入額	—	7,624
特許権償却	2,963	2,644
商標権償却	992	633
営業外費用合計	26,095	18,758
経常利益	747,669	1,419,431
特別利益		
関係会社株式売却益	—	205,651
新株予約権戻入益	619	434
特別利益合計	619	206,085
特別損失		
減損損失	1,065,863	—
特別損失合計	1,065,863	—
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△317,574	1,625,517
法人税、住民税及び事業税	253,360	437,109
法人税等調整額	△95,527	△34,152
法人税等合計	157,832	402,956
当期純利益又は当期純損失(△)	△475,407	1,222,560
非支配株主に帰属する当期純利益	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△475,407	1,222,560

連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
当期純利益又は当期純損失 (△)	△475,407	1,222,560
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△429	4,907
為替換算調整勘定	13,705	14,539
その他の包括利益合計	13,275	19,446
包括利益	△462,131	1,242,007
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△462,131	1,242,007
非支配株主に係る包括利益	—	—

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,493,012	972,139	2,059,924	△3,268	4,521,807
当期変動額					
新株の発行	—	—			—
新株の発行(新株予約権の行使)	2,178	2,178			4,357
剰余金の配当			△48,902		△48,902
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△475,407		△475,407
自己株式の取得				△470	△470
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	2,178	2,178	△524,309	△470	△520,421
当期末残高	1,495,191	974,318	1,535,615	△3,738	4,001,385

	その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	7,636	△8,991	△1,354	8,345	4,528,797
当期変動額					
新株の発行					—
新株の発行(新株予約権の行使)					4,357
剰余金の配当					△48,902
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)					△475,407
自己株式の取得					△470
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△429	13,705	13,275	△974	12,300
当期変動額合計	△429	13,705	13,275	△974	△508,121
当期末残高	7,206	4,713	11,920	7,370	4,020,676

当連結会計年度(自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,495,191	974,318	1,535,615	△3,738	4,001,385
当期変動額					
新株の発行	773,357	773,357			1,546,715
新株の発行(新株予約権の行使)	7,213	7,213			14,426
剰余金の配当			△81,560		△81,560
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)			1,222,560		1,222,560
自己株式の取得				△182,811	△182,811
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	780,570	780,570	1,141,000	△182,811	2,519,330
当期末残高	2,275,761	1,754,888	2,676,615	△186,550	6,520,715

	その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	7,206	4,713	11,920	7,370	4,020,676
当期変動額					
新株の発行					1,546,715
新株の発行(新株予約権の行使)					14,426
剰余金の配当					△81,560
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)					1,222,560
自己株式の取得					△182,811
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	4,907	14,539	19,446	16,732	36,179
当期変動額合計	4,907	14,539	19,446	16,732	2,555,509
当期末残高	12,113	19,253	31,366	24,103	6,576,186

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△317,574	1,625,517
減価償却費	808,665	705,925
株式報酬費用	—	21,266
株式交付費	—	7,856
新株予約権戻入益	△619	△434
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△2,263	7,597
賞与引当金の増減額(△は減少)	8,075	9,474
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△978	1,057
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	26,131	32,393
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	21,660	14,080
受取利息及び受取配当金	△483	△811
のれん償却額	228,399	—
減損損失	1,065,863	—
助成金収入	—	△53,278
関係会社株式売却損益(△は益)	—	△205,651
売上債権の増減額(△は増加)	△10,428	81,761
たな卸資産の増減額(△は増加)	13,724	△27,779
仕入債務の増減額(△は減少)	23,786	14,140
その他	44,070	149,268
小計	1,908,027	2,382,383
利息及び配当金の受取額	141	955
助成金の受取額	—	53,278
法人税等の支払額	△87,304	△464,261
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,820,864</b>	<b>1,972,356</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△3,602	△3,600
有形固定資産の取得による支出	△48,422	△100,189
有形固定資産の売却による収入	1,688	—
無形固定資産の取得による支出	△729,233	△665,274
長期貸付けによる支出	△14,631	—
投資有価証券の取得による支出	△5,611	—
投資有価証券の売却による収入	25,889	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	299,920
差入保証金の差入による支出	△5,054	△4,362
敷金の回収による収入	132	—
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△778,846</b>	<b>△473,506</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	△912	△912
株式の発行による収入	4,002	1,549,186
配当金の支払額	△48,902	△81,560
自己株式の取得による支出	△470	△182,811
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△46,282</b>	<b>1,283,902</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	19,166	15,176
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,014,902	2,797,929
現金及び現金同等物の期首残高	1,880,448	2,895,350
現金及び現金同等物の期末残高	2,895,350	5,693,279

## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

### 【セグメント情報】

#### 1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

「クリエイターサポート事業」は、グラフィック技術の研究開発と実用化を推進し、新しいコンテンツ制作技法や新デバイスに対応した製品ラインナップの拡充を行っており、マンガ・イラスト・アニメ制作アプリ「CLIPSTUDIO PAINT」シリーズ等の企画から開発まで、セルシス社内で行っております。マンガ・イラスト・アニメ制作アプリ「CLIP STUDIO PAINT」シリーズは、主に、セルシスが運営するインターネットを通じてイラスト、マンガ、アニメ、小説のグラフィック系コンテンツの制作ソフトウェアの提供や、クリエイターの創作活動を支援するWebサイト「CLIP STUDIO」において、ダウンロードによる販売、PC流通業者及び小売業者を通しての販売、使用許諾での提供等を行っております。また、グラフィック技術の研究開発成果をもとにした、ソフトウェアやサービスノウハウをソリューションとして提供しております。PC・タブレットデバイス・スマートフォンを始めとする各種プラットフォームへの電子書籍配信ソリューション「CLIP STUDIO READER」、電子書籍オーサリングソフトウェア等を始めとする、様々なデバイス・プラットフォームに対応したグラフィック系コンテンツの制作・流通・再生にまつわる各種ソリューションを提供しております。

「UI/UX事業」では、自動車（四輪・二輪）関連分野を筆頭に、車載向けソフトウェア開発プラットフォーム「CGI Studio」（シージーアイスタジオ）、及び、HMIの基盤であるUIオーサリングソフトウェア群「UIConductor」（ユーアイコンダクター）を中心とする自社IP製品の開発を行い、車載機・デジタルカメラ等のデジタル家電機器や、スマートフォン等のモバイル端末に向けてUIソリューションとして使用許諾を行い、ライセンス収入を得ております。

また、UIのデザイン業務からソフトウェア開発業務、組込み業務までを受託開発として請け負い、開発費及び保守・サポート費を得ております。

#### 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格等に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度(自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表計 上額 (注) 2
	クリエイター サポート事業	UI/UX事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,806,760	1,567,047	6,373,808	—	6,373,808
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	20,579	20,579	△20,579	—
計	4,806,760	1,587,626	6,394,387	△20,579	6,373,808
セグメント利益 又は損失(△)	1,463,087	△812,242	650,844	122,429	773,273
セグメント資産	2,576,066	2,466,774	5,042,841	595,438	5,638,279
その他の項目					
減価償却費	265,971	502,683	768,655	40,009	808,665
のれんの償却額	—	228,399	228,399	—	228,399
有形固定資産及び 無形固定資産の 増加額	437,783	321,653	759,437	20,591	780,028

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又は損失(△)の調整額122,429千円は、主に各事業セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。全社収益は、提出会社に対するグループ子会社からの経営管理指導料であり、全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用であります。
- (2) セグメント資産の調整額595,438千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社資産によるものです。全社資産の主なものは提出会社の現金及び預金、持株会社運営に係る資産等であります。
- (3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額20,591千円は、主に報告セグメントに帰属しない全社資産の購入であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。



当連結会計年度(自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表計 上額 (注) 2
	クリエイター サポート事業	UI/UX事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,807,509	1,070,793	6,878,302	12,500	6,890,802
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	5,807,509	1,070,793	6,878,302	12,500	6,890,802
セグメント利益 又は損失(△)	1,777,148	△498,019	1,279,128	99,625	1,378,753
セグメント資産	4,172,711	1,861,375	6,034,086	2,310,584	8,344,670
その他の項目					
減価償却費	313,559	356,837	670,397	35,528	705,925
のれんの償却額	—	—	—	—	—
有形固定資産及び 無形固定資産の 増加額	378,965	316,373	695,339	53,270	748,609

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又は損失(△)の調整額99,625千円は、主に各事業セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。全社収益は、提出会社に対するグループ子会社からの経営管理指導料であり、全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用であります。
  - (2) セグメント資産の調整額2,310,584千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社資産によるものです。全社資産の主なものとは提出会社の現金及び預金、持株会社運営に係る資産等であります。
  - (3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額53,270千円は、主に報告セグメントに帰属しない全社資産の購入であります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
1株当たり純資産額	123.01円	191.46円
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額(△)	△14.57円	37.49円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	—	36.83円

- (注) 1. 前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。
2. 当社は2021年7月1日を効力発生日として、普通株式1株を4株に分割しております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。
3. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額		
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円)	△475,407	1,222,560
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円)	△475,407	1,222,560
普通株式の期中平均株式数(株)	32,606,968	32,608,266
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する 当期純利益調整額(千円)	—	—
(うち支払利息(税額相当額控除後))	—	—
普通株式増加数(株)	—	580,225
(うち新株予約権)(株)	—	(580,225)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要	—	—

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当連結会計年度 (2021年12月31日)
純資産の部の合計額(千円)	4,020,676	6,576,186
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	7,370	24,103
(うち新株予約権(千円))	(7,370)	(24,103)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	4,013,306	6,552,082
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	32,624,224	34,220,952